



ヴェロキラプトル（白亜紀に栄えた恐竜）

# かわはく No.29

## CONTENTS

新館長あいさつ	2
水の汚れと水生生物	2
かわはくの展示から	3
平成19年度特別展「よみがえる化石動物」	4
平成18年度アンケート調査及び来館者統計から	6
都幾川を歩いて	7



# 新館長あいさつ

館長 本間岳史

皆さん、こんにちは。早い夏の訪れを予感させるような強い日差しが、目にまぶしく感じられる今日この頃です。柿沼前館長の後任として、この4月から館長を務めることになりました本間と申します。平成4年から平成9年まで6年間、川の博物館の開設準備を担当させていただいた後、長瀬の自然の博物館に勤務しておりました。4月からは、2つの博物館長を兼務することとなり、長瀬、寄居、浦和などを行ったり来たりの忙しい日々を過ごしております。

川の博物館は、教育局が所管する8館目の博物館として、それまでのオーソドックスな博物館とは一線を画する、新しい発想の上にアミューズ性も加味した施設として建設されました。すなわち、大型映像や鉄砲堰の実演を行う劇場空間として演出する常設展示室や、川下りの大型映像に連動するライドシミュレーター、ウォーターアスレチック施設など、参加体験・体感型のハンズ・オン展示を積極的に導入しました。大水車、荒川大模型、大型美術陶板画の3つの日本一も、話題性と集客力アップをねらった新しい試みでした。

開館以来の10年を振り返ってみますと、このようなねらいが一定の効果を上げてきたことは、年間20万人を超える来館者や、旺盛に展開してきた各種普及事業への参加者の様子などからも読み取れます。しかし一方では、博物館法上の登録博物館としての基本的な機能も求められています。川の博物館は、平成20年度から指定管理者により運営が代行されます。民間の活力とノウハウを、どのようにしたら博物館の運営に活かせるのか？県直営の博物館に民間の指定管理者を導入した例はきわめて少なく、当館への導入事例は全国的にも注目されることになるでしょう。

本年度は、自然の博物館と同時開催する夏の特別展や、収蔵庫の改修などの新事業も予定されています。これらの課題と並行して、指定管理者に運営をお願いする事業や施設管理などについて具体化し、指定管理者を選定していかなければなりません。川の博物館にとっては、県直営の最後の年度となります。私は館長として全力を尽くしていきたいと考えておりますので、皆様のご指導・ご協力をお願いいたします。

## 水の汚れと水生生物

### 水生生物

川の水質を判断する方法として、川底に生息する水生生物を調査する方法があります。水生生物とは、川底で幼虫時代を過ごす水生昆虫（カゲロウ・カワゲラ・トンボの仲間など）や、貝類など一生活を水中ですごす底生生物（タニシ・カワニナなど）と呼ばれる仲間のことです。

これらの生物は、水質によって生息数や種類が異なるため、水の汚れ具合を判定する基準として使われる指標生物と呼ばれます。

平成10年からは統一基準による調査が国土交通省と環境省によって実施されています。

調査は川の中に入って、川底の石の下などを探って「すくい網」に捕獲しその種類や形状を観察し、記録用紙に個体数などを記録します。

この作業を別の地点でも繰り返せば、水質の違いによる生息する生物の違いがあることがわかります。

### 各水質階級の指標生物

水質階級（きれいな水）

カワゲラ・ヒラタカゲロウ・ナガレトビケラ・ヤマトビケラ・ヘビトンボ・ブユ・アミカ・ウズムシ・サワガニ

水質環境（少し汚い水）

コガタシマトビケラ・オオシマトビケラ・ヒラタドロムシ・ゲンジボタル・コオニヤンマ・カワニナ・スジエビ・ヤマトシジミ・イシマキガイ

水質環境（汚い水）

ミズムシ・ミズカマキリ・タイコウチ・ヒル・タニシ・イソコツブムシ・ニホンドロソコムシ

水質環境（大変汚い水）

セスジユスリカ・チョウバエ・エラミミズ・サカマキガイ・アメリカザリガニ

\*学校の先生方へ

当館では、上記のような体験学習を荒川で行うことが出来ます。詳しくは、当館ホームページ (<http://www.river-museum.jp> 学校支援) をご覧いただくか教育普及担当までご相談ください。

(教育普及担当 西口 正純)



かわはくの展示から

## ちやぶちやぶじま・たきたきじま

埼玉県立川の博物館では、平成18年度、財団法人日本宝くじ協会の助成を受けて館内にさまざまな設備を導入しました。「かわはく」27号で紹介したアドベンチャーシアター内に設置した3Dシアターや第1展示室のワークショップの整備がそれにあたり、昨年の6月にはオープンし、お客様からの好評価を得ています。しかしながら、日本宝くじ協会の助成による施設はこれだけではなく、噴水池に出現した「ちやぶちやぶじま」と「たきたきじま」も同じように助成によって造られ、この4月にオープンしたばかりです。そこで、今回は、この「ちやぶちやぶじま」と「たきたきじま」について紹介したいと思います。

「ちやぶちやぶじま」と「たきたきじま」は、噴水広場の中央にある噴水池の中にあります。いずれも2～3ヶ所にかけて架けられた橋を渡って島に入るようになっています。島にはそれぞれ水遊び場があり、水に親しみながら遊んでもらうことを目的とした施設として造りました。

### ちやぶちやぶじま

「ちやぶちやぶじま」は、総合案内所から入ってくると目の前に見えるL字型の島です。総合案内の方から橋を渡ると直ぐにあずまやがあり、あずまやの左手の広場には水が湧き出ている水遊び場があります。かたわらには小さな滑り台があります。主に3歳以下のお様が保護者の方とともに水に親しんでいただくことを目的に設置しました。そのため、水遊び場の水位も深い所で



ちやぶちやぶじま（あずまやと滑り台が目印です）

もで約3cmと全体的に浅くなっています。「ちやぶちやぶじま」という名称もこの浅い水の音からきています。あずまやは、水遊び場で遊んで



たきたきじま（左からは滝の水しぶきがあたります）

いるお子様を見守っていただけるように設置しました。

### たきたきじま

「たきたきじま」は、滝（カスケード）のほぼ真下にある台形の形をした島です。滝の水が一部入ってくることから「たきたきじま」と名付けました。島全体が水遊び場となり、周囲の岩の隙間から水が湧き出しています。主に小学生以下のお様が保護者の方とともに水に親しんでいただくことを目的に設置しましたので、水位も最も深い所で約6cmとなっています。

なお、これらの島を利用する際には以下の点を守ってください。

- ・必ず保護者同伴の上ご利用ください
- ・水遊び場には靴などをぬいでご利用ください
- ・橋などは滑りやすいので注意してください
- ・岩やてすりに登らないでください
- ・噴水池には入らないでください
- ・島内での飲食はご遠慮ください
- ・職員の指示には従ってください

いずれの島も大変滑りやすくなっています。十分注意してください。

（展示担当 渡 政和）



## 「よみがえる化石動物」

開催期間—平成19年7月21日（土）～9月2日（日）

郷土埼玉には、大昔さまざまな古生物たちが住んでいました。

特に、秩父盆地や外秩父山地の丘陵地の地層（約1500万年前）からは、クジラをはじめ海生の生物、また、入間川とその周辺の地層（約100万年前）からは、アケボノゾウなどの陸生の動物や植物の化石などが多産しています。

今回の特別展「よみがえる化石動物」は、これら県内で発見された脊椎動物化石をはじめとして、ヴェロキラプトルなどの恐竜や新種の魚化石などの珍しい化石を展示します。川の博物館では「海に生きた動物たち」を、自然の博物館では、「陸に生きた動物たち」を紹介します。この機会に、「自然と川の博物館」の2館でタイムトラベルしませんか。

### 1. 海に生きた動物（第1会場：川の博物館）

およそ1500万年前、埼玉はひろく海に覆われ、秩父の山裾まで海に浸かっていました。

当時は、サンゴやマングローブの繁栄するトロピカルな気候で、クジラ・ウミガメなどさまざまな海生の脊椎動物が生活していました。

#### まぼろしの海獣

絶滅哺乳類のパレオパラドキシア（束柱目パレオパラドキシア科）は、日本の中新世を代表する古生物です。子孫を残さずに絶滅したこの動物は、さまざまな疑問や謎が秘められています。

秩父盆地では、8カ所からこの化石が発見され、2標本が骨格復元されています。いずれも埼玉県県の天然記念物となっています。

なお、自然の博物館では、実物や3体の骨格群像が展示されています。

#### 波間を泳ぐクジラ

クジラ類は、食性によりハクジラ類とヒゲクジラ類の2グループに進化しました。



パレオパラドキシア骨格復元（上）  
実物標本（下）



チチブクジラ（頭骨標本）



チチブサワラ復元模型



近年、秩父市からは、ヒゲクジラ類のチチブクジラという新種が記載されています。現生のシロナガスクジラの祖先にあたるケトテリウム（類）という仲間です。チチブクジラは、体長数mの小型のクジラですが、頭骨の鼻孔の位置などにまだ原始的な形質が残っています。

### 埼玉の魚類化石

川の博物館の下流、深谷市菅沼の荒川河床で、全長12mにも及ぶ巨大ザメが、また、秩父盆地からは、体長2mの新種チチブサワラ・マンボウの仲間のチチブクサビフグなどの新種の魚類化石が相次いで発見されました。



巨大ザメの歯群化石

## 2. 陸に生きた動物（第2会場：自然の博物館）

埼玉にもゾウやサイの巨獣がすんでいました。現在、その当手を想像するのは難しいでしょう。

しかし、気候や地殻変異に伴って、島国日本が陸続きとなるたびに、したたかにも彼らは、ここ埼玉の大地で楽園を築いていました。



アケボノゾウ骨格復元

### 埼玉のゾウ化石

埼玉には、前期更新世（約100万年前）の地層からアケボノゾウの骨格化石や臼歯・足跡化石などが入間川や加治丘陵などから発見されています。写真は狭山市笹井産の骨格化石（県指定天然記念物）の復元模型です。

また、寄居町用土・比企郡滑川町福田・深谷市折之口・本庄市児玉町元田の後期更新世（約10万年前）の地層から、ナウマンゾウの臼歯化石が発見されています。どの標本も段丘堆積物の泥質層から、井戸掘りなどの作業中に発見されたものです。



アケボノゾウ臼歯（左）

ナウマンゾウ臼歯（右）

### サイ化石

深谷市平方の荒川右岸の後期中新世（約800万年前）の地層から、テロオケラス亜科の上下顎の歯がよく揃った状態の化石が発見されています。このサイは、顎が細長く、太く短い切歯を備えています。地球上から姿を消してしまったグループです。



深谷市平方産サイ化石

（自然の博物館 学芸主幹 坂本 治）



# 平成18年度アンケート調査及び来館者統計から

平成18年度は、県立の博物館が再編となった元年です。そこで、アンケートと当館の特色を示す統計グラフをもとに考察してみました。

第1図：入場料方式になって、どの程度来館されたかを示すグラフです。11月までの特に暑い時期のお客が多い傾向が継続しています。8月の6万人は驚かされます。

第2図：来館者が何を川博に期待しているかの一端がわかります。

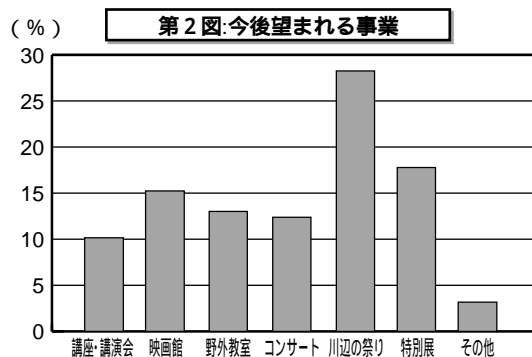
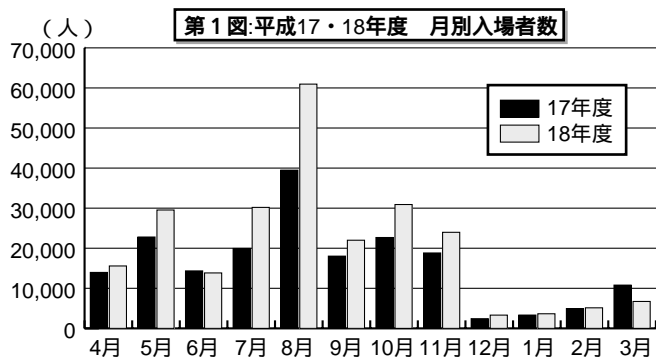
第3～10図までは、館内外施設の理解度や満足度を示すものです。お客様の印象ですから、一概に安堵はできません。『大変楽しかった』の割合が増やせる工夫をしていく必要があります。

第11・12図は、当館における学校利用の様子を示したものです。宣伝効果もあってか、館での体験学習は右肩上がりです。児童生徒の満足度も上がってきています。

グラフには示してありませんが、県外からの来館が増加傾向にあります。案内資料を配付した効果かとも思われます。聞き取り調査によるとホームページを見ての来館者も増えています。また、小学校の利用と30・40歳代の親とその子どもによる家族連れが自家用車で利用する傾向が昨年度以上に伸びています。リピーターも増えてきています。

『もっと幼児も遊べる場所を作ってほしい』アンケートの中にある多くの方からの要望です。これを受け、今年度から噴水広場に主に未就学年齢の児童を対象とした、楽しみながら水を体感し、安全に親しむことができる「ちゃぷちゃぷじま」と「たきたきじま」をオープンしました。たいへん好評です。これからも積極的な広報活動を展開し、入場者、県民の皆様の声に応えられるよう多くの課題を前向きにとらえ、工夫と努力をしていきます。

(教育普及担当 福島 智)



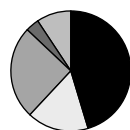
第3図:屋内展示の印象



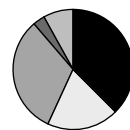
第4図:野外展示の印象



第5図:アドベンチャーシアターの印象



第6図:荒川情報局の印象



第7図:わくわくランドの印象



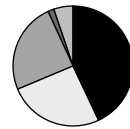
第8図:荒川大模型173の印象



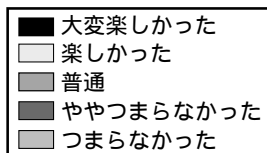
第9図:溪流観察窓の印象



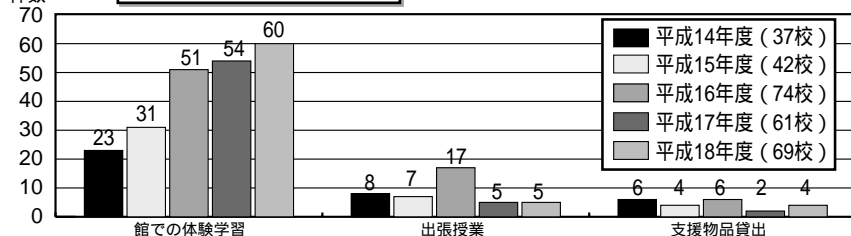
第10図:水車小屋の印象



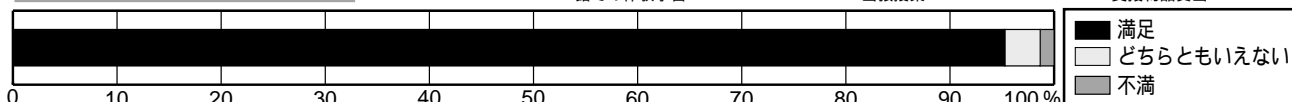
円グラフ(第3～10図)の凡例



第11図:学校受入件数の推移



第12図:体験学習の満足度





## 都幾川を歩いて・・・

- 『どきときマップ都幾川』を刊行 -

都幾川は、ときがわ町大野の高篠峠直下に源を発し、ときがわ町・嵐山町・東松山市を貫流し、川島町と坂戸市の境を流れ、越辺川に合流します。荒川水系では、入間川・高麗川・赤平川に次いで第4位の長さ(27.6km)を誇ります。

なお、都幾川の語源は、清めるという意味の「斎」(とき)からきていると言われています。

源流域は豊かな自然に生まれ熊や猪、岩魚や山女が生息しています。上流域は里山の景色を残し「木のムラときがわ」の名前のとおり、木を利用した多くの建物が存在します。中流域は、河岸段丘上に文化の誉れ高い施設群が建ち並び、下流域には豊かな水田が広がります。

マップでは、表面に「みずと遊ぶ」・「都幾川と遺跡」・「橋を渡ろう」・「祈りのかたち」・「みずへの恐れ」、裏面には流域毎の見所及び「自然」・「樹と花」・「文化施設」・「治水と利水」を紹介しています。

まず、表面の代表的な見所を紹介しておきます。「みずと遊ぶ」では、「木のむらキャンプ場」(ときがわ町)や「学校橋下の河原」(嵐山町)の他、あらゆる水辺が遊び場となり、夏には清流で泳ぐ子供たちの歓声が上がります。

「都幾川と遺跡」では、行司免遺跡(嵐山町)と野本將軍塚古墳(東松山市)の二大遺跡を取り上げました。行司免遺跡は、比企地区最大の縄文時代(3500年前)の集落で、300軒近くの竪穴住居跡が見つかりました。しかし、消滅して現在では見ることはできません。野本將軍塚古墳は、4・5世紀に築造された古墳で当時としては県内最大の古墳です。墳丘に登るとその大きさに圧倒されます。また菅谷館跡も忘れることができない史跡です。

「橋を渡ろう」では、道路橋・鉄道橋・水管橋を紹介しています。道路橋では、稀少なコンクリートのアーチ橋で大正10年架橋の玉川橋

(ときがわ町)、木橋の長楽落合橋は昔の風情を感じられます。鉄道橋では、渓谷を渡る八高線の都幾川橋梁(昭和8年)、煉瓦製の橋脚を持つ東武東上線の都幾川橋梁(大正12年)も共にゆっくり眺めたい橋です。

「祈りのかたち」では、山吹姫の墓のある班溪寺・多様な板石塔婆を有する向徳寺・埼玉育児院発祥之碑の安養寺などの他、本流域は比企西国三十三札所のルート上にあることから多くの名刹があります。「みずへの恐れ」では上流の水神、下流の九頭龍様を紹介しています。

裏面の「自然」では、支流七重川の女滝・男滝、巨石の乞食岩が圧巻であり、また三波渓谷は安らぎを与えてくれます。「樹と花」では萩日吉神社の児持杉(ときがわ町)、たまがわ花菖蒲園(ときがわ町)のほか、流域の至るところで桐・ニワゼキショウ・曼珠沙華が季節に咲き乱れます。「文化施設」では日赤旧社屋、国立女性教育会館・丸木美術館などがあります。「治水と利水」では、本流にも大規模な堰堤がありますが、約20堤が連続する七重川の堰堤群は圧巻そのものです。堰堤の築造は県内初(大正5年)の治水事業であり、その記念碑が建立されています。また、流域の市町では、今なお飲料水として利用していることも紹介しています。

都幾川を散策する際には、是非とも参考にさせて頂ければと思います。

(教育普及担当 中村倉司)



## 8月

### 1/水 化石のクリーニング

時間：10：00～12：00

定員：32人（申込順）

費用：100円 ☾

### 5/日 水の日記念イベント

時間：10：30～ /13：30～

### 11/土 特別展記念講演会

時間：13：30～

内容：埼玉化石物語

定員：80人 ☾

### 16/木 利用促進研修会（総合教育センター共催）

時間：9：30～16：30

内容：教材として活用できるものを体験

対象：小・中学校教員

### 24/金 伝統漁法体験

時間：10：00～ /14：00～

定員：各50人（申込順）

費用：400円（保険料） ☾

### 25/土 化石のレプリカづくり

時間：10：00～ /14：00～

定員：各32人（申込順）

費用：100円 ☾



## 9月

### 8/土 わくわくサタデーミュージアム

「昆虫の体のフシギ」

時間：10：30～ /14：00～ 定員：32人（申込順）

費用：200円 ☾

### 9/日 映画会

「木龍うるし」

時間：13：30～ /14：30～ 定員：80人（先着順）

費用：無料

内容：子供向けの映画です。

### 16/日 荒川ゼミナール

「人間生活と水循環」

講師：鈴木裕一氏 時間：13：30～15：30

定員：80人（申込順） ☾

### 22/土 わくわくサタデーミュージアム

「手作り箱メガネで川底探検」

時間：10：30～ /14：00～ 定員：32人（申込順）

費用：200円 ☾

### 9/22/土～11/18/日

企画展 「埼玉の名水と酒」

内容：埼玉県内の名水・湧水と酒づくりに関する資料を展示します。



# かわはくで学ぼう!!

## イベント情報コーナー

## 10月

### 6/土 わくわくサタデーミュージアム

「野草観察と押し花カードづくり～秋～」

時間：10：30～ /14：00～

定員：32人（申込順）

費用：100円 ☾

### 14/日 映画会

「石を架ける」

時間：13：30～

定員：80人（先着順）

費用：無料

### 20/土 わくわくサタデーミュージアム

「水のエレベーターと噴水をつくろう」

時間：10：30～ /14：00～

定員：32人（申込順）

費用：100円 ☾

### 21/日 荒川ゼミナール

「カワムシと水環境」

講師：大熊光治氏

時間：13：30～15：30

定員：80人（申込順）



## 11月

### 3/土 わくわくサタデーミュージアム

「ふしぎな船をつくろう～しょうのう船～」

時間：10：30～ /14：00～ 定員：32人（申込順）

費用：100円 ☾

### 4/日 映画会「がんばれスイミー」

時間：13：30～ /14：30～ 定員：80人（先着順）

費用：無料 内容：子供向けの映画です。

### 7/水 電子顕微鏡操作研修会

時間：9：30～16：30 定員：32人（申込順） ☾

内容：走査型電子顕微鏡を使って教材を作成（総合教育センターと共催）対象：小・中・高教員

### 14/水 かわはく秋まつり～県民の日イベント～

時間：10：00～16：00 内容：各種子供向けイベント

### 17/土 わくわくサタデーミュージアム

「ふしぎな船をつくろう～ポンポン蒸気船～」

時間：10：30～ /14：00～ 定員：32人（申込順）

費用：200円 ☾

### 18/日 荒川ゼミナール

「水環境エコツアー」

時間：9：00～16：30

定員：40人（申込順）

内容：ムサシトミヨの棲息地などを見学（バス利用）☾



ホームページでも紹介しています！

<http://www.river-museum.jp/>

【お願い】 行事は都合により変更になることもあります。ご了承下さい。 ☾印のついた行事は事前申込みが必要です。電話またはFAX・Eメール（ホームページ内からもお申し込みいただけます）でお申し込みください。 定員になりしだい締め切ります。 川の情報もお寄せ下さい。

編集・発行

埼玉県立川の博物館

〒369-1217 埼玉県大里郡寄居町大字小園39番地

TEL / 048-581-8739(学芸) FAX / 048-581-7332

E-mail/web-master@river-museum

2007年7月6日発行

R100

PRINTED WITH  
SOYINK